

子らが手を 巻向山に 春されば 木の葉しのぎで 霞たなびく

10-1815 柿本人麻呂

あの子の手を巻くという名の巻向山 その山に春がやってきたので 木々の葉をおしのけるように 霞が棚引いている

春は、「旅立ち」と「別れ」、「出会い」の季節！

暦の上では、24節気の3番目の啓蟄も過ぎ、春も間近に近づいています。この時期、三寒四温を繰り返す中で、日増しに春を感じる頃となっていますが、奈良における本当の春は、奈良東大寺二月堂で行われているお水取りの行事が終わらないと来ないと言われています。

この時期、保育園、幼稚園やこども園での卒園式、小中学校での卒業式があり、まさに「旅立ち」の季節となります。また、年度末ということから、一般の会社や役所、学校・園では人事異動があったり、その異動に伴う引っ越しがあったりと、ある意味「別れ」の季節となります。



「別れ」には、さまざまな感情が込められているように思います。春の別れは、喜びや悲しみ、寂しさや期待感など、複雑な感情の入り混じった瞬間です。しかし、同時に新たな出会いのチャンスもやってきます。入園や進学、学校のクラス替えや職場の異動によって、新たな友だち、先生、職場の仲間など、新しい人々との接点が生まれると思います。これらの出会いは、新たな友情や人とのつながりのきっかけとなるかもしれません。

ところで、ある本に、「春の別れから学ぶ人生の教訓」というのがありました。別れを迎えることは悲しいことかもしれませんが、同時に人生の教訓を学ぶチャンスでもあるようです。

創造力と柔軟性

春の別れは、人々が新しい環境や出会いに向けて進むためのきっかけで、この時期に別れを経験することは、自身の創造力と柔軟性を養う機会となります。新たな環境や人との出会いに対して柔軟に対応し、未知の世界に向かって進むことで、自己成長を促すことができます。

感謝と感慨深さ

春の別れは、過去とのつながりを断ち切る一方で、その人との関係や思い出に感謝する機会でもあります。別れを迎えることで、相手への感謝の気持ちや関係の重さに気づくことができます。また、春の別れは新たな出会いの前段階でもあるため、過去の別れを振り返ることで、未来への希望や感慨深さを感じることができます。



成長と変化

春の別れは人生において大きな変化をもたらすものです。新たな環境や出会いに直面することで、自身の成長や変化を実感することができます。その瞬間瞬間において、自身がどれだけ成長してきたのかを振り返り、「別れ」という機会を通じて自分

自身を見つめ直すことができます。

前向きな捉え方

春の別れは、一方で新たな出会いを予感させるものでもあります。過去の別れを乗り越えると、未来への希望と前向きな気持ちが湧いてきます。春の別れを機に、自身の人生においてさらなる可能性を見出し、新たな目標や挑戦に向かって進むことができます。



このように、別れを通じて自己成長を促し、未来への希望を持ちながら新たな出会いに向かって進むことが大切だと思います。



ちなみに、「出会い」についても少し触れてみたいと思います。

私はこれまでも人生の節目の時に、いろいろな場所や「たより」などで、「出会いは神様の贈り物」という自分として、とても好きなフレーズを伝えてきました。

人生において「出会い」は、私たちの成長や幸せに大きな影響を与える重要な要素です。偶然の瞬間や意図的な交流を通じて生まれる出会いは、新たな視点や機会をもたらし、私たちの人生を豊かに彩ると思います。人間は社会的な生き物であり、他者との関わりを通じて自己を形成していきます。また、出会いは個人の社会的ネットワークを広げる重要な手段でもあり、多様なバックグラウンドを持つ人々との交流は、新たな知識や情報の獲得、異なる視点の理解に繋がると思います。そういう意味で私は常々「出会いは神様の贈り物」という言葉を大事にしてきました。それは、私が今まで38年間の教員生活や教育行政、そして微力ながら広陵町の教育を担っている今の役職の中で、様々な人々との「出会い」があり、なぜかその時、その時に微力であるにもかかわらず、精一杯自分を生かしてもらっていたからです。

「出会い」を通じて得られる学びや経験は、私たちの人生に深い影響を与え、未来の選択肢を広げる手助けとなります。本来「出会い」がなければ「別れ」はないのですが、この3月は「別れ」の月、4月は「出会い」の月として、一つの人生の節目として考えていただければと思います。

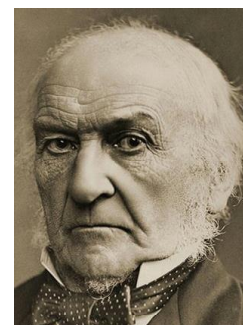
今月の一言



大きな過ちを多く犯さないうちは、
どんな人間でも偉人や善人にはなれない。

ウィリアム・グラッドストン

イギリスの政治家で、ヴィクトリア朝中期から後期にかけて自由党を指導して4度にわたり首相を務めた。人はどんなことにもチャレンジし、いくつかの大きな失敗を積み重ねることで人の気持ちや人をいたわる心が芽生えるとともにその痛みが分かる。そのことが偉人となったり善人と呼ばれるようになったりするとグラッドストンは言っています。



[裏面へ](#)

教育委員会の取組

いじめ防止標語の表彰式を行いました！

2月28日(金)に令和6年度のいじめ防止標語の表彰式を教育委員さん臨席のもと、役場2階の第一委員会室で行いました。

このいじめ防止標語の募集は、平成30年1月に広陵町いじめ防止基本方針が策定されたことを受け、いじめ防止啓発の一環として、令和元年から実施している取組です。今年度も11月に町内の小学校4年生、5年生、中学校2年生を対象に行いました。その結果、小学校4年生292点、5年生375点、中学校2年生290点、合計957点の応募があり、その中から厳正な審査の結果、各学年の最優秀作品を1点ずつ選考させていただきました。その受賞者の氏名と作品を下に記します。



広陵西小学校4年生 宮氏 裕誠 さん

「ごめんねを、何回言ってもなおらない

心の「傷」は、なおらない」

広陵東小学校5年生 奥野 颯真 さん

「なくそういじめ なくそう泣き顔

増やしていこうよ みんなの笑顔」

広陵中学校2年生 藤井 邦理 さん

「遊びだよ」 そういい相手を 傷つける」

くつ下について研究したことを発表！

真美ヶ丘第二小学校の4年生が、広陵のくつ下産業について学んだことを発表する授業が、3月6日(木)の3時間目にありました。広陵町の地場産業であるくつ下について、4年生担任の鈴木先生、野中先生の熱い想いによる教材研究と広陵町役場の産業総合支援課ともタイアップした取組で、山村町長さんや地域振興部、教育委員会も授業参観させていただきました。

私は2組の授業を参観しましたが、この日のめあては、「くつ下について学んだことをもとに、自分たちの思いを発信しよう」というもので、①学習したことについての発表、②ポスターの提案、③グッズの提案という3つの内容で授業が進みました。



①では、くつ下の歴史について、現在の西小校区で大和木綿を使ったくつ下製造が盛んとなり、吉井泰次郎さんがこの地でくつ下を作り始めたとの研究発表がありました。また、現在のくつ下製造について、町内の3人の社長さんからインタビューして聞いた話の中で、「広陵くつ下をブランド化して海外に売り出していることがすごい。」との報告もありました。



②のポスターの提案では、キャッチコピーとして「自分にあったくつ下で人生にもっとバラ色を」と「1

日が始まる靴下」の2つの提案がありました。

③グッズの提案ではポスターを入れる箱の提案がありました。

広陵町の地場産業であるくつ下製造について、学んだことをしっかり伝えてもらったことに感謝するとともに情熱と人とのつながりで100年以上続いてきたくつ下産業を次世代を担う子どもたちに受け継がれればと思いました。

市町村対抗子ども駅伝で、総合7位に！

3月8日(土)檀原運動公園にて、節目となる第20回の市町村対抗子ども駅伝が開催されました。昨年の12月15日(日)に開催された町マラソン大会で選考された男女8人が駅伝の部とタイムトライアルに出場しました。2月号でも紹介しましたが、1月中旬から毎週土曜日の午前中に馬見丘陵公園での練習を積み重ねた集大成となる日です。早朝より、山村町長さんも駆けつけていただき、選手の皆さんに熱い激励の言葉をかけていただきました。私も「タスキに一人一人の想いを込めてつないでいった先に結果が出ます」とメッセージを贈りました。この日はかなり冷え込んだ朝となりましたが、一人一人が1周1630mの距離を持てる力を精一杯発揮しての走りでした。広陵町から応援に駆けつけた多くの人たちの声援を受ける中で、順位は初め、24位でしたが、17位、14位、11位、9位とタスキをつなぐごとに順位を上げ、最後は7位に入賞するすばらしい成績を収めてくれました。駅伝の部では、総合7位、町の部で2位となりました。また、タイムトライアルでも12位、13位とすばらしい成績を収めてくれました。



世代間交流事業「広陵町魅力再発見ウォーク」

3月9日(日)10時から、社会教育委員会議の主催事業である世代間交流事業「広陵町魅力再発見ウォーク」を東小校区の百済の地で開催しました。新たな世代間交流事業として昨年より始まり、今年は第2回目となります。昨年は北小校区の教行寺や大福寺公園、櫛玉神社を訪問しましたが、今回はイチゴ農園、ドッグスクール、百済寺を巡るウォークでした。10歳の小学4年生から78歳までの多世代の方々44人に参加していただきました。

イチゴ農園では、濱野さんが「古都華、あすカルビー、ゆめのかなど6種類のイチゴを栽培しているので、大きなイチゴを取って試食してください。」とのうれしい提案で、多くの方が真っ赤に熟した大きなイチゴを満面の笑顔でほおばっておられました。



ドッグスクールでは、松川さんに救助犬の話を中心に人の匂いを嗅ぎ分けるデモンストレーションやはしごを渡る訓練、人捜しの訓練などの様子を見せていただきました。百済寺では、4人の文化財ガイドの方々から百済寺の歴史と国の重要文化財である三重塔、本堂の大織冠、梵字池について詳しく説明していただきました。特に普段絶対に見られない三重塔の大日如来座像も見せていただきました。最後に、参加者にはイチゴと缶バッチのお土産があり、満足した輝く笑顔で帰っていただきました。

